# ゴルフ場のコースメンテナンスと ベントグラスCY-2のご紹介

## 1. はじめに

先日、男子ゴルフの松山英樹が2020年東京五輪ゴルフ競技予定会場で、米トランプ大統領の指名により招待され、安倍晋三首相と三人でプレーをしました。日本には約2,300以上のゴルフ場があり、ゴルフ場ごとにコースメンテナンスの仕事を指揮している、「グリーンキーパー」がいます。

弊社ではゴルフ場へ、ベントグラス、ペレニアルライグラス、ケンタッキーブルーグラス等の芝生種子を販売しておりますが、グリーンキーパーの仕事や、コースメンテナンスの仕事をベントグラスの管理と併せてご紹介します。

### 2. ゴルフ場のコースメンテナンス

1つのゴルフ場の総面積は大小ありますが、100万㎡以上のゴルフ場も数多く、グリーンキーパーはそのうちの数十万㎡のティーグラウンド、フェアウェイ、ラフ、そしてグリーンの芝地を管理します。芝地以外の非プレーエリアの敷地についても近年では管理の重要性が増しています。具体的には、シカ、イノシシ等の鳥獣対策や、樹木の間引き、剪定が必要になっています。

各ゴルフ場では様々な特色があります。来場者数が年間で10万人に迫るようなコースや、メンバー利用中心のプライベートなコース、全国中継のトーナメントを開催するコース、照明が灯り深夜までプレー出来るコース等があります。このため、ゴルフ場によってコースメンテナンスに求められる管理も変わってきます。例えばビッグトーナメントを実施するようなコースでは、ピークをトーナメント開催時へ持っていくために数か月前から利用の制限を設け、万全の準備をする事もあります。年間来場者数が多いコースや、管理人員の少ないコース、ナイタープレー利用のあるコース等は、いかに日々踏圧に耐えうる強靭な芝地を作るかが求められます。現在のゴルフ場の多くは、後者に属すると認識してい



写真1 多くの芝地や緑地が管理されている

ますが、この作業を難しくさせているのが日本独特 の四季があること、梅雨があること、夏季の高温多 湿な気象条件があることです。

特にグリーン(ベントグリーン)の管理においては、非常に手間と気を遣う作業となります。約10,000㎡の面積のグリーンを、良好なボールの転がりを維持する為に、年間で3mm~5mm程度の刈込を300日前後、更新作業を数回、目砂散布作業を数十回、施肥を数十回、病害・虫害防除の為の殺菌殺虫剤の散布、雑草防除を行います。気象条件、来場者の顔色をうかがいながらの管理作業であるため、一筋縄ではいきません。高温多湿の条件下においてのベントグリーンの夏越し対策は、最大の課題となっています。

# 3. CY-2 (シーワイツー) の特徴

芝草の無農薬管理技術の研究を進めていた千葉県と、育種技術を有する弊社は、種子繁殖性クリーピングベントグラスの共同開発を行い、「CY-2」を開発しました。全米芝草評価プログラム(NTEP)

でも高い評価を得ており、販売から10年以上が経った現在も広く種子を利用していただいております。

日本の高温多湿な気象条件下で生まれたCY-2は 海外で育成された品種に比べ、日本の気象条件によ く適応し、栽培管理が他品種に比べて容易です。

#### ・ターフクオリティ(芝質)

ペンクロスに比較して明らかに優れる、アップラ イトで年間を通じてキメが細かい芝質を形成する ことができる

#### ・密度

ペンクロスに比較して明らかに優れ、他のニュー ベントグラスと同等以上の高密度ターフを維持す る

#### ・耐病性

<u>ダラースポット、ブラウンパッチ耐性に非常に優</u>れる

## ・冬季緑度

ペンクロスや他品種に比べて明らかに優れる また、アントシアンの発生が極端に少ない 既存ベントグリーンへのインターシーディングに よりアントシアンを目立たなくする

#### ・葉色

<u>春季~秋季は鮮緑色で自然な色合い</u> 冬季は明鮮緑色となり、冬場でも自然な色合い

#### ・越夏性

耐病性に優れることから、梅雨~夏期の密度低下 が少なく、越夏性に優れる

以上の代表的な特性を持つCY-2に草種転換をしていくことで、ベントグリーンの夏越しに一役担えるものと考えられます。そして、その結果、低コスト管理に繋がるものとも考えられます。

## 4. ベントグリーンへのインターシーディ ング

現在主流となっているのが、「インターシーディング」と呼ばれる手法で、既存ベントグリーンへ種子を播種し、新品種に切り替える事、混在させる事を目的とします。

## インターシーディングの手順

① 前処理

サッチング バーチカルカット コアリング

② 播種

スパイキングシーダー等利用

③ 播種後作業

目砂 擦り込み 散水 殺菌剤散布



写真 2 冬季でも均一性の高いCY-2



写真3 芽数の揃ったCY-2



写真 4 真夏のCY-2

以上が一般的な手順になりますが、定着率を向上させるためには前処理が重要なポイントとなります。また、継続して種子を播種していくことで定着率が向上します。

しかしながら前処理をするということは一時的に グリーンにダメージを与える事になるため、パッ ティングクオリティの低下等が考えられます。この ため、フロントやメンバー等との綿密な打ち合わせ 等が必要と考えられます。

## 5. おわりに

私はこれまでに、グリーンキーパーは「ゴルフ場の命」とも言われるグリーンの管理について、想像を絶するような力を注いでいる現状を目の当たりにしてきました。過酷な気象条件の移り変わりの中でベントグリーンや広大な面積の芝地等を管理しているグリーンキーパーの方々は、正に職人であると思います。是非テレビ中継で映るゴルフ場を一つ違う角度から見てみてください。

最後に、この場をお借りしてゴルフ場のグリーンや圃場にて、弊社の種子を使用していだいた感想や 事例などの有用な情報を提供していただいているゴルフ場様、販売店様に深く感謝いたします。



写真 5 スパイキングシーダー播種跡



写真6 発芽後の淡い葉との混在状況



写真7 管理の行き届いたベントグリーン